

SHIBETCHA

広報しべちゃ

特集

広がる、地域のタカラ。
集まる、未来のチカラ。

10

Oct.2024
No.800

表紙：標茶町の地域おこし協力隊のフォトグラファー
中道智大さんが撮影した満天の星空と見つめる2人。

特集

広がる、地域のタカラ。 集まる、未来のチカラ。

標茶町では酪農業が地域を支えてきましたが、後継者不足や人口流出の危機に直面しています。一方で、標茶町には魅力的な「タカラ」や「チカラ」があることが意外と知られていません。今月の特集では、標茶町を支える「地域のタカラ」と「未来のチカラ」をご紹介します。

標

標茶町では、長い間、基幹産業である酪農業が地域を支えてき

ましたが、近年では後継者不足や離農者の増加など深刻な課題に直面しています。また町全体を見ても、進学や就職を機に若年層が町を離れるケースが後を絶たず、若年女性の減少や人口流出の危機に直面しています。

一方、標茶町には豊かな自然環境と強力な「武器」があります。国立公園や国定公園の存在に加え、日本一の敷地面積を誇る標茶高校や、全国第4位の牛乳生産量を誇る酪農業など、地域の強みは数多く存在しています。また、女性の活躍が顕著であり、標茶町女性団体連絡協議会をはじめとする団体が、地域の支えとなっています。

しかし、この豊かな資源や魅力があるにもかかわらず、標茶町は人口減少や若年層の流出に苦しんでいます。地域の将来を見据え、どのようにしてこれらの課題を乗り越え、持続可能な町づくりを実現していくのか、今こそ真剣に向き合う時です。

標茶町には大きな可能性を秘めている「タカラ」があります。

▼ 標茶はんどめいどくらぶ

標茶町在住のハンドメイド好きが集まったグループ。会員9人で主にイベント参加や情報交換、個々にイベント主催をしています。代表の山崎さんは「もっと仲間が増えてくれると嬉しい」と語ってくれました。



年4回「標茶町社協福祉バザール」「ボンマルシェ」に出店しています。

▼ グリーン★ツーリズム標茶

標茶町の観光、グルメを中心に情報発信をしようと、2008年に町内の酪農家、養鶏家で行動を開始。さらに飲食店、主婦も加わり標茶のことを常に考えている熱いチームです。



乳製品や卵など地元食材を使ったおいしい商品を作り、標茶の魅力発信しPRすることを目指す。

▼ まなぼっくす

JA しべちや女性部勉強部会まなぼっくす。女性が集まって経営管理や経営分析などを、自ら学ぶ姿勢を大切にする会として活動に取り組み、女性の経営参画を積極的に促しています。



今年横浜で開催された全国大会では、最優秀賞を受賞。日頃の取り組みが評価されました。

標茶町の若年女性人口と出生率の減少問題

標茶町では、若い女性の転出が進学や就職を理由に多く見られ、さらに子育て世代においても転出超過が続いています。特に、20～30代の女性が初産の9割以上を占める一方で、この世代の女性人口は2000年代初頭から減少しています。合計特殊出生率は全国平均を上回っているものの、子どもを産む年代の女性が減ることで、出生数も減少しています。これらは、女性が活躍できる場所が不足していることや、出産世代の人口減少がもたらす課題を浮き彫りにしています。

しかし、そのタカラだけではなく地域の「チカラ」も必要です。人口減少や少子高齢化といった課題を乗り越えるためにできることは――。

広がる地域のタカラ、集まる未来のチカラ。この町の未来を切り開くために、私たちが今できることは何か。本特集では、皆さんと共に標茶町の未来を考えていきます。 ■

色鮮やかな未来を描く
塘路のクレヨン屋さん

夕焼



手作りクレヨン工房 Tuna-Kai

岩城 朋子さん

岡山出身の岩城さんは、北海道で農業普及職員として働いていましたが、クレヨンに関わる仕事をしたいという夢を抱き、文化と歴史のある標茶に惹かれ虹別に雑貨店を開業しました。その後、塘路に移転し、地元の人々の温かい協力と支えを受けながら現在の店舗を開きました。夢は「標茶は時間が穏やかで美しい夕焼けが心に響きます。今後は人の想いが込められた品々を作り色鮮やかな未来を描き続けていきたい」とのことです。

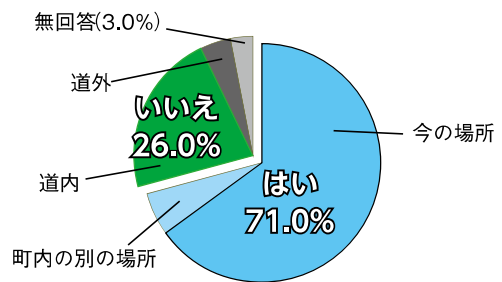


まちを元気にする原動力

広がる、 地域の タカラ。

私たちが暮らす標茶町を
もっと元気にしたいから……。
何気ない日常のなかに
標茶町への想いが町内にあふれています。

標茶町に住み続けたいですか？



7割以上の住民が「はい」

令和元年度に実施した住民意識調査で「あなたは、将来も標茶町に住み続けたいと思いますか」とアンケートを行いました。その結果、全体で7割以上の住民が「今の場所、町内の別の場所に住みたい」と回答。町外に移住を検討している方は、「日常の交通や買い物不便」「医療・福祉面の不安」「娯楽や余暇の場所が少ない」という意見が多く見られました。

標茶町が誇る自然 魅力と暮らし

広大な自然に囲まれ、四季折々の美しい風景が楽しめる標茶町。釧路湿原国立公園や阿寒摩周国立公園、厚岸霧多布昆布森国定公園など、豊かな自然環境に恵まれたこの町では、自然と共に生きる暮らしが営まれています。酪農業が盛んで、標茶産の乳製品は高品質で多くの人々に愛されています。

最近では、アクセスの良さや移住者への手厚い支援制度もあり子育て世代から移住希望者まで、多くの人がこの町を訪れ、魅力を感じて移住する人も徐々に増えてきました。

塘路湖でのカヌー、多和平展望台からの雄大な眺めは、多くの人々に感動を与え、ワカサギ釣りやキャンプ、乗馬など、一年を通じて楽しめるアクティビティの充実。標茶を訪れるたび、新しい発見があることも町の魅力の一つです。

そんな標茶町は、一時的に訪れるだけでなく、住んでみたい、ずっと住み続けたいと思えるような場所なのかもしれません。

ふるさとで夢を追う 長尾さん夫婦の物語

夕か号



ojicoffee

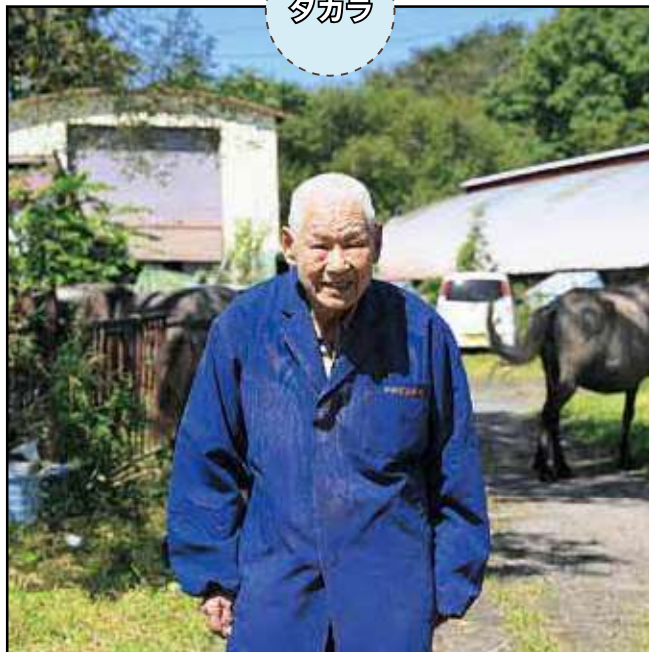
長尾 幸志・美奈さん

標茶町出身の長尾さん夫婦は全道転勤の会社を退職しUターンを決意。移住後は大切な家族との時間を作りながら趣味で続けていたコーヒー販売を本格的に仕事にしようと茅沼で「ojicoffee」を日曜限定で営業しています。「湖があり、広々とした標茶の雰囲気が入った」と語る長尾さん。今後も脱サラし、コーヒー屋一本でやっていく夢があります。「ここでしか味わえないゆったりとした時間を提供したい」と笑顔で話してくれました。



ドサンコと共に未来を担う 子どもたちに願いをこめて

夕か号



北海道和種馬保存協会所属

森 一久さん

森さんは約80年前に標茶町に入植。開墾に馬は欠かせない存在で特に北海道固有のドサンコ（北海道和種馬）は、体は小さいが強く農作業や運搬に大きく貢献しました。96歳になる現在もドサンコを大切に育てており、北海道開拓を一緒に支えた馬たちの存在は、今も変わらず森さんの大切なパートナー。「乗馬しやすいドサンコ。子どもたちにも乗馬してもらい、ドサンコを身近な存在にしたい」と温かいまなざしで語りました。



標茶が
大好き
だから

標茶の地域おこし協力隊



「馬とともに暮らせる町」を目指す町づくりに興味をもち、移住して1年が経ちました。17時に流れるアラジンの曲も、開運橋から眺める釧路川も、菱の葉で一面緑色の夏のシラルト口湖も標茶の好きなところ。今年は、家族や友人が遊びに来てくれ、博物館やカヌー、乗馬と一緒に楽しみました。標茶ファンが増える、そんな町であり続けてほしいです。

地域おこし協力隊 伊藤里恵さん (馬・移住推進事業)

ん。豊かな自然と共に、時間がゆつたりと流れるこの町での暮らしは、心を癒し、豊かにしてくれる――。

一度住んだ人は離れがたくなり、また戻ってきたくなる。その背景には地域を想う地域の「タカラ」があります。それが広まり、自発的に町のファンを生み出す「チカラ」となり、未来につないでいくことになるのではないのでしょうか。

日

本一の広さを誇る標茶高校。広大な敷地と自然環境を最大限

に活かし、地域の未来を担う「チカラ」を育てています。敷地内の山や川、野生動物が生息し、生徒たちは自然に囲まれた環境で都会では体験できないさまざまなことを学ぶことができます。それらを活かし、自然と深く関わる独自のカリキュラムを「人」「自然」「食」の3系列の授業を行っています。

例えば「食品ロスゼミ」や「チーズゼミ」、「鹿ゼミ」といったゼミ活動は、生徒たちが自らテーマを設定し、課題解決に取り組みます。生徒たちはただ教えられるだけでなく、自ら考え、行動する力を養います。この力は標茶高校を卒業した後の人生で大きな財産となるはずです。さらに、標茶高校では自ら生産した商品を地域や全国に販売しています。牛乳やヨーグルト、野菜やソーセージといった品々は、標茶高校の生徒たちが手塩にかけて育て、作り上げたもので、地域事業者におろされたり、物産展などで販売されています。これらの商品は町民の誇りであり、ふるさと納税の返礼



①

①9月14日に中学生の体験入学「しべこうフェス」を開催。標茶高校で製造したチーズを使用したピザ作り体験をしました。②「しべこうフェス」では酪農体験なども行われ、子牛とのふれあいが行われました。③全国から集まる生徒を受け入れている「黎明寮」。集団生活を通じて豊かな人間関係が育われます。



②



③



(写真上) 鹿ゼミが地元事業者から鹿肉を仕入れ、加工した「鹿ソーセージ」は今年のふるさと納税返礼品です(写真下) 標茶高校で製造・加工した商品はさまざまなイベントで販売されます。標茶駅ホームでの販売の様子。



日本一の敷地面積を誇る町内の高校「標茶高校」

集まる、未来のチカラ。

都会では学ぶことができない自然に囲まれた中、「人、自然、食」を軸にして標茶町の魅力を活かした学校があります。

楽しむ。

2年次から好きな科目を選択でき、自分で加工品を作ったり、ゼミなどの活動で自分の個性を活かすことができますのが楽しいです。

学べる。

自分で作ったものを販売して喜んでもらえると嬉しいです！地域の人と連携した取り組みがたくさんあるので勉強になります。



高校の敷地面積が日本一！東京ドーム約55個分の255haもあるんです！雄大な自然のだから空気も水もおいしい！



机の上の勉強以外の
フィールドワークが
たくさんあります！



標茶高校は2020年2月に酪農教育のために乳用牛を飼育する学校農業が全国の高校で初めて「農場 HACCP」認証を取得しました。

先輩、後輩、先生が
フレンドリーで
過ごしやすいです！



全国の仲間が集う「黎明寮」



標茶高校の魅力は何と
いっても敷地面積日本
一の広大な環境。酪農、
食品加工、釧路湿原の
保全、タンチョウの保
護、クルーズ船でのおもてなしなど、自分の興
味に応じた学びが可能。それを魅力に感じ全道
から多くの生徒が集まり、さらに全国から生徒
の募集も行っています。寮では先輩や後輩との
距離が近く、家族以外との共同生活が貴重な経
験に。先生も寮で生徒と過ごし、勉強や悩み相
談など、親身にサポートしてくれる環境が整っ
ているので、安心して寮に入ることができるの
も魅力の一つです。



都会にはない自然と学びの魅力
自主性にあふれる標茶高校は魅力的

神奈川県から標茶高校を訪れ「しべこうフェス」に
参加した加納さん一家。自然豊かな環境に魅力を感じ、寮や町内の買い物環境に安心したとのこと。在校生の発表も「やらされている感じ」がなく、自分で考えて取り組んでいる姿が印象的で、「都会の学校とは違い、ここでは主体的に学べる」と標茶高校の魅力を家族みんな
で話してくれました。



品としても高い評価を受けています。生徒たちは自分たちの作ったものが人々に喜ばれることに、誇りと喜びを感じながら、自分たちの手で標茶の魅力为全国に発信しています。

標茶高校の生徒たちは、地域にとつてのかけがえのない「宝物」。生徒の皆さんが築き上げた絆や学びは、これからの地域を支える大きな力となり、未来を切り拓く「チカラ」となり標茶の未来を担っていく。

都会では学ぶことのできない標茶町の高校だからこそその魅力が人が集まる理由なのかもしれません。■

① 酪農食品系列



① 地域産業の酪農、近隣の食材を生かした食品加工・開発などの学習から農業経営、農業の知識・技術を身につけます。② 外国文化やアイヌ文化などを学習し他者を理解する態度や能力を身につけます。③ 地域の環境素材を生かした体験活動で実践力・表現力を身につけます。

② 文化理解系列



③ 地域環境系列



標茶高校で見つけた夢

私は清里町出身です。小学生の時に牛乳からバターを作る授業を体験し、それ以来食品加工に興味を持ちました。食品加工や商品開発についてもっと学びたくて、いろいろな学校説明会に参加していましたが、標茶高校の「鹿ゼミ」で食べた鹿ジャーキーに感動して「自分でも作ってみたい!」と思い、標茶高校への入学を決めました。今は寮生活をしながら、加工品についての勉強に励んでいます。将来の夢は大学に進学し地域の未利用資源を活かした商品開発を学びたいです。

おおみ はると
標茶高校3年 大網 温十さん

標茶での生活が
大好きです!

夢の始まりは
標茶高校の「鹿ゼミ」
が入学のきっかけです!





写真展を企画した中道さん(一番右)と協力したデザイナー、フォトグラファーの皆さん。



自然の宝庫、標茶町で
写真と映像を作成しています！

標茶町地域おこし協力隊
中道 智大さん(36)

町の魅力に惹かれて移住しました！

2021年に千葉県から北海道標茶町の狼が20頭飼育されていた7000坪の森へ移住。町の地域おこし協力隊として 自然の中での暮らしから感じたことを文や写真、映像にしています。

その思いが形となり、旧中虹別小学校を会場に写真展を開催することを決意。この旧中虹別小学校は、昭和4年に開校し、平成15年に幕を閉じた歴史ある

標茶町の豊かな自然と静寂。虹別地区の美しい風景に魅了された中道さんは、この場所を訪れる人々にその魅力を伝えたいという強い思いを抱くようになりました。

「月の森写真展を始めたきっかけは、この地域の自然の美しさをもっと多くの人に伝えたいからでした」と語る写真展の発起人、中道さん。2021年に千葉県野田市から北海道の標茶町に移住し、地域おこし協力隊として活動を始めました。

標茶町への思い



本展示会に関わった皆さん。中道さんの人柄と熱量に共感し、たくさんの方々が集まりました。

廃校に宿る新たな命を発見。 つながる、地域のタカラ、チカラ。

北海道の自然に魅了され、千葉県から標茶町へと移住した中道さん。廃校となった校舎に新たな命を吹き込み、地域の美しさや魅力を多くの人々に伝えるため、写真展を開催。展示を超えた交流の場となり、標茶町に新たな活力をもたらしています。



使用しなくなった机や椅子を活用。学校という大人にとっては懐かしい場所は、足を踏み入れるだけで、昔にタイムスリップしたかのような気持ちにさせる。

廃校で新たな活気を

小学校。多くの児童が学んだ教室は、廃校として静かにその時を過ごしていました。そんな中、この廃校を再び人々が集う場として生かすことができないかと考えた中道さん。ライフワークである写真を通じ、人が集まる場を作って廃校に新たな命を吹き込みました。



標茶町と町民の皆さんに 写真や映像を通じて貢献したい

委員の協力を得て実現し、ただ写真を観るだけではなく、お店が出されたり、演奏会が行われるなど、多くの来場者を迎える仕掛けもしています。

「多くの方々がこの廃校を訪れ、写真や出展者、人との触れ合いを通じて、地域の魅力、標茶の魅力を発見してくれています。昨年も、地元の方々や遠方から来られた方々との出会いがあり、素敵な時間が流れていました。取り壊さずに守り続けてくれた皆さん、協力していただいた皆さんに本当に感謝しかありません」と中道さんは話します。このイベントは単なる写真展ではなく、地域の人々との絆を深め、標茶町全体に新たな活気をもたらす場となっているのです。

大好きな標茶町のために

「僕は標茶町で暮らす人々が大好きです。それぞれの想いを持ちながら移住した人々や、生まれ育った地を愛する人々、また自然や動物を大切にしようとする人々。皆さんと触れ合ううちに、心から標茶が好きになりました。今では町と町民の皆さんに何か貢献したいと強く



思うようになりました。写真や映像を通じ、町の美しい自然や素晴らしい人々の想いを多くの人に伝えて町の人々にもその魅力を再発見してもらいたい」と語る中道さんはSNSで町の魅力を発信中。また、今年の「月の森写真展」は10月12日(出)・13日(日)に行われますので、ぜひ足を運び、標茶町の魅力を再発見してはいかがでしょうか。■

写真の展示のみならず、地元の店舗の協力でブース出展するなどして、会場をにぎやかな場所に。また、楽器演奏なども行い、観るだけでなく、耳でも楽しめる工夫もされています。開催することが目的ではなく、しっかり町の魅力を肌で感じて、ずっと好きになってほしいという中道さんたちの気持ちの表れとなった。

InstagramなどSNSで 標茶町や日常を配信中!

地域おこし協力隊として、そしてフォトグラファーとして活動している中道さんは、標茶での日々や町の素敵な写真をギュッと想いを詰め込んでInstagramなどで発信中。Xのアカウント(@ton_dog_beagle)はフォロワーが3万を超えるインフルエンサー。町内外に標茶の魅力を届けています。

Instagram
@tomohiro_nakamichi





「夏祭り」「子どもの夢を育てる祭り」での様子。地元の方々とのふれあいを通してふるさと標茶町を感じることができます。



なんもある町へ 未来につなぐ、広がる。



標茶町には、住民一人ひとりが町を元気にしたいという強い想いがあります。自然豊かなこの町で、人の取り組みや想いがつながり、未来の世代へ広がる。子どもたちが、わがまち「標茶町」に愛着をもち、ずっと住みたいと思う町へ。

Shibeche

なんもある町へ

星がこぼれ落ちてきそうな夜の多和平、絶景広がる西別岳、水鳥の目線になれる釧路湿原のカヌーは多くの人を癒し、酪農は国民の食を支えています。誇るべき資源を磨き上げ、標茶暮らしを謳歌する人が増えれば「もっと元気なべちゃ」に近づきます。町が丸となり未来へつながる町づくりを進めていきます。



標茶を走るSL 冬の湿原号と夕暮れの草原。



標茶町長
佐藤 吉彦

子どもから大人まで幅広い町民が町のために活動しています。趣味、仕事の延長上、人づてに手伝うこと、目的は異なっても、どこかで自分が住んでいる町を元気にしたい、多くの人に知ってほしいという思いがあるから自発的に活動している——。

標茶町はこれから人口が減ると言われています。しかし、今回登場した皆さんのチカラがあり、さらに誇れる自然もある。なんもない町という人もいますが、そんなことはありません。「なんもある町」こそ、標茶町だと言えます。

想いをつなぐ・広がる。まちは「人」によって形



標茶の未来を担う子どもたち。子どもの夢を育てる祭りには多くの子どもたちが集まりました。

を変えていきます。これからの標茶町の未来は、町民の取り組みや想いをつないでいき、町内外に「広がる」ことが、これからの標茶町をさらに元気にしていくのではないのでしょうか。

町に住む人の生活や活動を支える取り組み、そして、それぞれの「想い」を未来を担う子ども・若者につなぎ「広がる」。地域のタカラ、未来のチカラをずっと大切に——。

標茶町が直面する課題は決して簡単なものではない
ません。しかし、地域の『タカラ』と『チカラ』が
合わさることで、無限の可能性を引き出すことがで
きるのではないのでしょうか。

雄大な自然環境や産業、地域に根付いた老若男女を
問わず活躍する皆さん全てが標茶町の大きな強み。

私たち一人ひとりがその力を最大限に発揮し、共に
手を取り合って未来を切り開くことで、標茶町は持
続可能な地域として未来につながっていく――。

そんな標茶町の未来を一緒に創っていきませんか。

